

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	株式会社さき		
事業所名	グループホーム みらい (2Fユニット)		
所在地	岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106456-008&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年目標の1つとして、地域との繋がりを深めるため、具体的には町内会の組合員として、保育園や小学校登下校の見守りを、当番の日のみではあるが利用者と一緒に行うことができました。集団登校する生徒達と挨拶を交わす利用者の姿を見ると、今後も続けたい気持ちです。
 ・昨年度は重度化により外出が減っていましたが、散歩、近所のスーパーへの買い物やパン屋さんの外のベンチでおやつパンを食べて過ごす等、普段の楽しみ事は増えたと思います。
 ・また、施設内勉強会で、「看取りについて」「高齢者の口腔ケアについて」では参加希望家族には参加頂き一緒に学ぶ機会をもち、ご家族の意見や気持ちを知ることができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

何年かぶりの訪問は12月25日・クリスマスの日だった。ホームの雰囲気がなんとなく、うきうきしていると思っていたら、今日の午後はみんなでクリスマス会。ここでは何年も前からケーキを手作りしている。大家族の様な和気藹々の中、利用者が次々と仕上げていくのを職員が見守り手助けして実に楽しそう。ホームで暮らすなら、私もこんな所が良いと思う。また、このホームの立地条件の良さも魅力だ。歩ける間は買い物に行ったり地域のイベントにも参加出来る。考えただけでもワクワクしてくる。さらに優れている点は、地域密着型のグループホームとして最も重視すべき「運営推進会議の運営の有り方」だと思う。会議を定期的にも実施していても、ここケアやサービス向上に活かそうと努力している所はあまり見られないと思う。地域の人々や家族の参加・意見交換もとても多い。開設して13年。よくここまで頑張ってきたなと感服しながら一日過ごさせてもらった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見えやすい玄関、スタッフルームに貼っており、理念を念頭に置き日々の活動やケアを行っている。	「尊厳と笑顔」「地域交流」「感謝と思いやり」の3本柱の理念は職員にも浸透しており、笑顔や輝きのある暮らしの実現に向けて終始一貫して取り組み続けている。今年度は外出支援に力を入れており、毎月、気分転換を兼ねて様々な外出支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や資源ゴミ当番、小学生との交流、公民館主催の防災キャンプへの参加は毎年恒例になっている。今年は交通安全母の会に参加し園児、小学生登下校の当番を行っている。	交通安全週間には利用者と一緒に通学路で子供達と挨拶・見守りをし、小学校の音楽発表会を鑑賞したり、保育園児との交流もある。毎年、近くのふれあいセンターや公民館に利用者の作品を展示しており、評判も良い。町内会との結び付きも深く、地域交流が活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されるさくら祭りで、近隣のGHと共同で毎年GHの紹介や、認知症についてのパンフレットの配布・相談コーナーを設けている。運営推進会議でも理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方から、鍵をしていない玄関なのに、声をしてもすぐにスタッフは来ないのは物騒との意見を頂いた。防犯対策のため、外部の方には必ずインターホンを押して頂くまではドアは開かない様に工夫を行った。	2ヶ月に1回、市の担当者、地域包括、町内会会長、愛育委員、老人クラブ、家族等の多彩なメンバーが参加して、「ふれあいセンターに展示している作品の評判について、アンケート用紙を置いてはどうか？」等、有意義で活発な意見交換をしたり、1年間分の事故報告をして対策を話し合っている。	模範的とも言える運営推進会議を実施し続けている。特に、参加者の意見がケアやサービスにつながっているのが良い。さらに、ホーム側が不安に思う事をこの会議でもっとオープンにし、相談して運営につなぐと次のステップにつなげられるだろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は運営推進会議に出席いただき、取り組みや、問題点等報告している。ふれあいセンターで利用者の作品展示を行った時は、作品を見て下さっている。	運営推進会議を平日に開催する事で、市の事業者指導課や地域包括の参加が得られ、情報交換をしたり何かあれば相談をして助言をいただいている。小地域ケア研修会に参加したり、近隣の他施設との交流もあり、市との連携も図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はやむを得ず身体拘束を行う場合の手順は理解できている。身体拘束の必要性等について悩む利用者は今はいない。	身体拘束の対象となるような事例はないが、昨今の社会情勢や防犯対策面を考慮し、今年から玄関の施錠をしている。施設外離棟対応マニュアルもある。「身体拘束・高齢者虐待防止について」事例を用いて研修をし、職員間で拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	春に事例をもとに虐待についての勉強会を行った。身体的虐待だけでなく心理的虐待等も学び、職員が不安に感じる事等話し合い自身を振り返る機会になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を活用している利用者は昨年退去されたが、今後も学ぶ機会は持ちたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり、契約書・重要事項説明書等の内容を理解して頂いた上で締結にあっている。また、内容が変わった際はご家族に説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや面会時にご家族・利用者の要望の確認等行っている。また運営推進会議に参加された家族から利用者の事をより良く理解したいという意見あり、施設内の勉強会の案内をしている。	年3回家族交流会を実施しており、敬老会には数十名の家族の参加があり盛況だった。「みらい通信」を発行し、2ヶ月に1回送付している家族への手紙には、行事や日常の様子はもとより、本人の発言(言葉)が記載してあり家族にとって嬉しい便利になっている。	名称は何でも良いので、多数の家族が集ってくれるイベントの時、家族の意見や意向を必ず聞く習慣を作って欲しい。下地は十分出来上がっているの、近い内に「家族会」にもつながると思う。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは年2回面談する機会を設け、管理者は毎月の会議または、個別面談の機会を設けている。春、夏、秋の家族交流会の内容は全ての職員の意見を下に会議により決定している。	毎月の職員会議では利用者のケアについて気になる点等を話し合ったり、玄関ドアの防犯対策について意見交換をしている。介護ロボットを導入して職員の腰痛軽減・介護負担軽減を図り、移乗介助時は「マッスルスーツ」を使用する等、業務改善にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談で出た意見で可能なものについては、実行に移してもらっている。また、目標管理シートを今年より取り入れ職員の努力や実績をより把握してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は全ての職員に、外部研修は個々の職員に対し必要と思われる研修内容を学べるように確保している。内部研修については学びたい内容を職員からも聞き取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1回、地域のGH管理者と情報交換の場を作っている。今年は小規模多機能ホームとの交流も増え、施設見学をさせてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前に本人に面会し、本人の話を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは事前面接や電話でお話を聞き、ご家族の困っている事等は細かく傾聴、共感の姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・家族の思いをよく聞きとる。本人の様子がよくわかるように、相談時の段階で利用者と共に過ごす時間を設け観察を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月、利用者の好きなおやつと一緒に作る機会を必ず設けるようにした。毎月、日にちを決めることで職員は意識して声かけし利用者が提案することもある。皆で作ったおやつは感動も大きい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度の手紙や面会時、気になる時は電話連絡等で利用者の様子は知ってもらっている。家族交流会は年3回行っているが多くの家族に参加してもらい喜んでもらえるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の平均年齢が高くなるにつれ身体機能も低下し、馴染みの場所にはなかなか行けないが、お友達が会いにきてくれたりしている。	日常的に家族・知人等の面会が多く、本日も二組の家族の面会があった。家族が来てくれるのを楽しみにしている人もいる。現在は退所して居ないが、利用者同士が同級生という事もあった。地域のイベントに参加すると顔馴染みの人に会う事もあり、それぞれの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が傍の席になるようにしている。レクリエーションの時間は皆で関わりを持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの利用者は亡くなられたことで契約を終了している。しかし、ご家族の中には立ち寄り、ボランティアに来て下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の担当スタッフが主になって毎年「今の私」を作成。要望や困っていること等聞きだしている。聞き出せない利用者については担当スタッフが日頃の関わりから気付いたことを書いている。	「今の私」シートには気持ち・状態・生活の様子・私の希望等の項目があり、本人から聞き取った内容が記載してある。1枚のシートに要約してあるが、それだけでなく日々の介護記録に職員の気づきや本人の発した言葉や会話、意向等をもっと記入して欲しい。そして“寄り添い気づき欄”を有効に活用して下さい。	利用者の思いや意向を把握する為には、職員のこの事に関する感覚を研ぎ澄ます事が大切だろう。その手法の一つとして一人ひとりの利用者の「言葉を拾ってみる」にチャレンジしてみてください。ある言葉からイメージが膨らみその人の思いの把握が出来るようになると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や事業所からの情報提供、入居後に得た情報等記載された内容を個人ファイルに載せ、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態は朝の申し送り時に夜間から朝の様子を、夕の申し送り時に日中の様子を伝え、気になることは申し送りノートにも記載している。気付き等は会議や朝の申し送り時間を利用し伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回を基本に行い、状況により早めに行うこともある。家族をまじえてのカンファレンスは年1~2回は行っている。訪問看護師に参加してもらうこともある。	利用者の担当制があり、本人の意向や状態をよく把握し、それを基に職員間で話し合っってプランを作成している。定期的なモニタリングとアセスメントをして現状に即したプランになっており、本人がやりがいや楽しみが持てるような具体的目標・支援内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気づきを記入する覧を設けている。申し送りノートも活用。個人の日々のサービス内容を実践できたかどうか記入するチェックシートを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間の予定になくとも気候の良い時はおやつや弁当等を屋外で食べ、気分転換を図るきまぐれ外出を時に行っている。近隣の祭り行事等は、地域のボランティアさんに協力頂き外出することもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校、中学校との交流は毎年続けることが出来ている。また、公民館やふれあいセンター等で年1回利用者の作品展を開催させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を基本としているが、こだわらない場合は協力医に主治医となって頂いている。重度化が進んでいるため、利用者によっては、家族にも職員と同行の協力をしてもらうことはある。	午前中は歯科医・歯科衛生士の3名が訪問中で、口腔ケア等を実施していた。週1回の訪問があり7名が利用している。ホームの協力医の隔週毎の往診。週1回の訪問看護もあり健康チェックをしてもらっているため、本人・家族も安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護による健康チェックを行っており、1週間に起きたこと、気になることを看護師に伝えている。看護師から気になる点があれば、助言をもらい、主治医に連絡をしてもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を提供し、入院期間中では、病院に行き、本人の様子等を医療関係者から確認している。退院時は、ホームと契約している訪問看護師にも出席してもらい、カンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人及び家族の意向を確認し、意向の変化は起こると思われるので必要に応じ話し合い、再確認を行っている。重度化・終末期ケアにおいては訪問看護師にも度々話し合いに加わってもらっている。今年、施設内で行った看取りの勉強会では数名の家族が参加された。	最期はホームでと希望する家族も多く、前年度も数名の看取りを実施した。点滴をせず、ずっと甘酒を召し上がりながら老衰による穏やかな最期を迎えた人もいた。訪問看護師による職員アンケートをしたところ、看護師と職員との意識のズレがあったが、インタビューに答えた事で不安が解消された職員もいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、看護師の指導のもと訓練を行っている。緊急対応マニュアルを作成し、目のつく所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行い、地震・津波対応、豪雨による水害、火災の避難訓練を行っている。1回は消防署員立ち合いの元、1回は地域住民の協力のもと行った。公民館主催の防災キャンプにも毎年参加し地域とも関わっている。	様々な災害を想定して避難訓練を実施している。夜間想定の大雨による浸水の避難訓練では、地域住民・運営推進委員等の参加者から感想や助言をもらった。心肺蘇生法等の救命救急の研修、地震・津波時対応マニュアルを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないような言葉かけ、本人の意思を尊重するようにしている。プライバシーの保護について学ぶ機会を設け、申し送りなどではイニシャル使用して話す等、工夫をしている	一人ひとりを尊重し言葉遣いには気をつけている。羞恥心にも配慮し、一対一での入浴介助をする。脱衣場へは一声かけて入る。排泄時は前にタオルをかける。職員同士で便の確認する時は人名でなくイニシャルを使う等と日頃から職員間でケアの統一に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事に関しては何人もの利用者が苦手な食べ物があり、別メニューでよく対応している。誕生日には好きな食事メニューを聞いたり、ご自分からなかなか言わない方にはAとBとどちらが好きか等聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間の前には声かけをするがまだ寝ていたい人には朝食を遅めに用意している。夜も食後間もなく休まれる人もいればテレビを見て過ごされる人も。昼夜逆転にならない程度に就寝時間も皆異なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師による毛染めやパーマを利用されている利用者は多い。好みの化粧水や乳液を用意したり、出かける時はお出かけ用の衣服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立っての調理は難しいが、簡単な家事はお願いしている。食器洗いをして頂いたり、ホットプレートを使っての料理は楽しんで下さる。	利用者も下拵えや盛り付けを手伝い、毎食職員が手作りして、利用者からのメニューのリクエストにも応えている。午後は1・2F合同のクリスマス会。利用者がそれぞれにケーキの上に苺などをトッピングして全員で賑やかにケーキ作り。皆で美味しく頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重は月1回測定し、日々の食事については毎回食事量を記録している。利用者の状態に合わせ、食事の形態を工夫したり、食事時間外の軽食の用意や栄養補助食品等も利用し栄養状態の安定に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の食後の口腔ケアを基本としているので、声かけを行う。一人できない人や細かいケアの必要のある人には再度職員が磨いている。ご家族の同意のもと、歯科の訪問も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は介助の必要な利用者であっても、尿意がはっきりしている場合は、布パンツで対応している。自立困難な利用者には、時間をみてトイレ誘導を行っている。	トイレに男性用便器の設置はあるが、全員座って排泄してもらっている。排泄が自立で布パンツの人も数名。リハビリパンツにパット、紙おしめと様々であるが、立位訓練・歩行訓練(リハビリ)を重視し、寝たきりの人でも出来る限りトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間を設けたり、個々の歩行訓練の時間を設けている。水分量の少なめの利用者には水分量を記録することで摂取量を意識できている。訪問看護による滴便や、服薬での調整もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否があれば日にちを変え、1番風呂を希望したり、おやつの後を希望する場合は浴うようにしている。	週2～3回の入浴を基本としている。重度化が進みシャワー浴対応や二人介助の人もある。拒否のある人には、楽しい気分にする関わりを持つような工夫や声かけをしている。同性介助を希望していた人が、女性職員がいない時は男性職員でも入浴してくれるようになった例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないようには気を付けるが、食後休みたい人、疲れやすく自ら横になる人様々なのでその人に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は説明書に目を通して。薬が変更された場合は家族に説明したり、副作用など書かれた薬の説明書を送付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昨年からは毎月、利用者の好きなおやつ作りを一緒に行っている。忙しいこともあって、つい職員で用意してしまうことを反省し、おやつ作りの日は作っても食べても、良いお顔をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の重度化により一度に全員の外出が難しくなっている。半数で車での外出もあり、おやつを食べに行きたいと2、3人の希望者のみで出かけるときもある。地域への外出はボランティア・ご家族等の協力を得て皆で出かけるようにしている。	外出好きな利用者が多く、出来る限り出かけるようにし、車椅子で行ける範囲で外出して気分転換をしている。行楽の季節には桜やつつじの花見に出かけ、外食に行く楽しみもある。近くのパン屋に行き外のベンチでおやつを食べる事もよくある。リビングの「お出かけコーナー」の写真を見ても楽しい日常を満喫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、職員が預かり保管しているが、本人の希望と家族の了解があれば小銭の財布を所持されている。お出かけ時にバックに財布を入れて行かれる方は数名いるがお買い物をする人は今はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に会いたい、電話したい気持ちがあるときは夜間以外はかける事できるように支援している。年賀状を出す時は担当者が必ず出したい人や人数を確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後ソファでゆっくりテレビを見ながらくつろぐ人もいれば、新聞を見たりお昼寝をされる人もいる。時々季節の花を生けたり、ホールの壁は季節に応じた手作りの作品を飾っている。	広いリビングには畳コーナーがあり、テレビの前のソファでゆっくり寛げるスペースもある。リビングには壁絵の大作や塗り絵・折り紙・書初め等の利用者の作品や写真等が展示され、楽しく明るい雰囲気がある。新聞を読む人、塗り絵をする人、脳トレをする人、それぞれ思い思いに好きな事をして過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士と一緒に過ごせるように席を隣にしたり向かい合わせにしたりしている。廊下の端の長椅子は、面会に来た家族とお話の場所になっている。いつもソファで居眠りをしている人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人、家族とよく話すことで、慣れ親しんだ家具を持ちこまれたり、家族との写真等を置いたり、畳の部屋にしたり、小さな仏壇を置いたりされ本人が過ごしやすい環境づくりを工夫して下さっている。	居室のドアの横には大きな写真が貼ってあり誰の居室かすぐ分かる。低床ベッドの人、自作の川柳や作品を展示している人、ペットの写真やテレビを置いている人、家族の写真をいっぱい飾っている人、それぞれ自分が居心地が良いと感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の可能性の高い利用者、よく転倒される利用者に対し、居室内を工夫したり床をクッションフロアに変えるなど行った。居室やトイレを間違える利用者のためわかりやすくしている。		